

新しい利用のあり方推進計画に係る調査

I. 利用者アンケート調査（詳細は参考資料 3 の資料 2-1 を参照）

1. 目的

新しい利用のあり方推進計画の具体的な検討を進めるにあたり、利用者の意向を把握すること

2. 概要

(1) 調査日時：平成 16 年 5 月 22 日（土）、23 日（日） 9:30～16:30

(2) 調査場所：物産店周辺、ビジターセンター内

(3) 調査形態：対面式アンケート調査

(4) アンケート数

回収したアンケート数は 2 日間で以下の通り 360 票となった。

調査場所	22 日	23 日	合計
物産展	120	100	220
ビジターセンター	77	63	140
合計	197	163	360

(5) アンケート調査項目

- ① 回答者の属性、来訪形態等について（居住地、性別、年齢、同行者、交通手段、来訪頻度、来訪目的、今後の来訪予定）
- ② マイカー規制について（必要性の認識とその理由、乗換え駐車場・シャトルバスの料金設定、シャトルバスの乗車時間設定、乗換え駐車場に必要な施設・サービス）
- ③ 自然体験プログラムについて（希望する自然体験プログラムの内容、有料ガイドツアーの料金設定、短期イベントの日程設定・宿泊先、イベント開催時の販売物産の内容）
- ④ 来訪時の出費について（昼食、飲料、おみやげ、宿泊、日帰り温泉）

3. 調査結果

主なアンケート調査項目に関する調査結果の概要は次に示す通りである。(分析では無効回答を除く。)

(1) マイカー規制に対する意向

① 必要性の認識

【回答者の85%以上が、ピーク時のマイカー規制が必要であると回答】

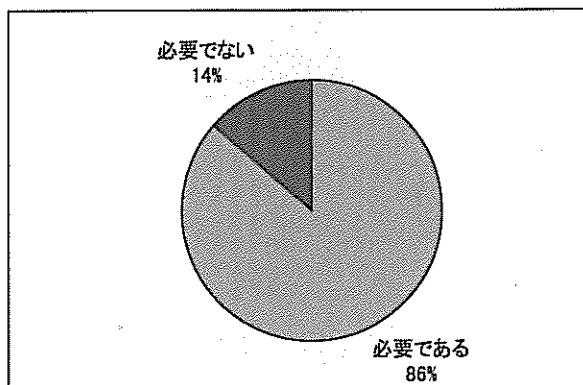


図1 ピーク時の規制の必要性

①—a マイカー規制が「必要である」と回答した人の理由 (自由回答)

【回答者の約53%が「自然環境の保護・保全のため」を理由に挙げる】

【「渋滞・路駐が生じるから」「排気ガス・CO2が発生するから」などの回答が多くみられる】

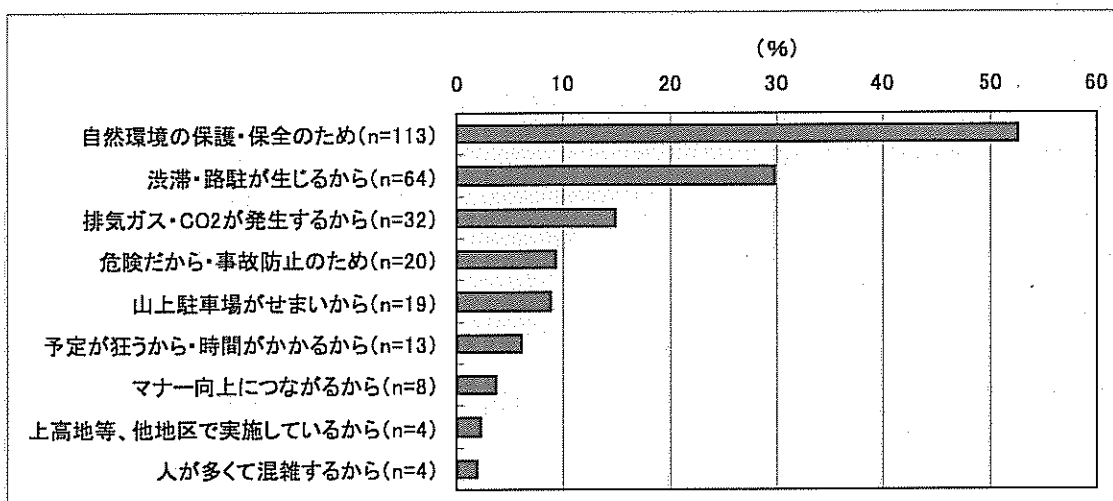


図2 マイカー規制が「必要である」と考える理由 (n=215)

①—b マイカー規制が「必要でない」と回答した人の理由

【20人中、12人が「自由な時間設定ができない・不便になる」ことを理由に挙げる】

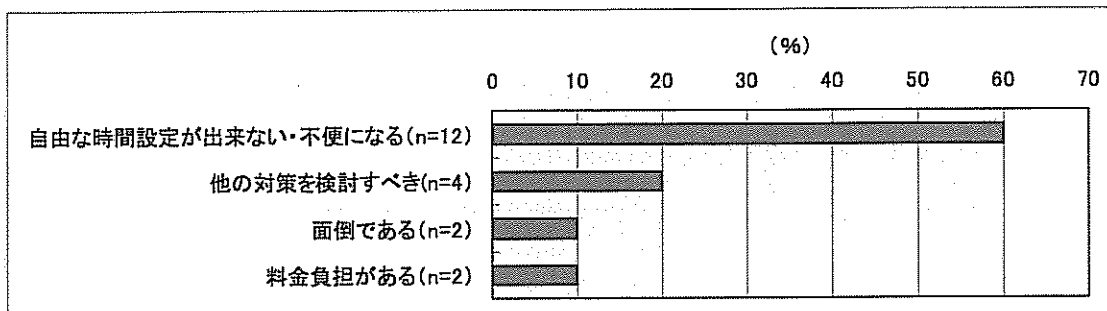


図3 マイカー規制が「必要でない」と考える理由 (n=20)

②マイカー規制を実施した場合の乗換え駐車場料金とシャトルバス運賃の合計支払意志額

【回答者の半数近くが「往復 1,500 円以内」とし、約 75%が往復 2,000 円以内が妥当であると回答】

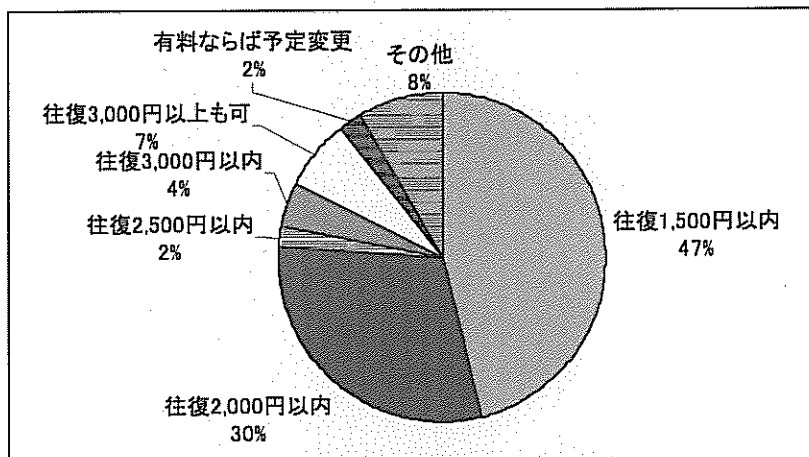


図4 乗換え駐車場料金とシャトルバス運賃の合計支払意志額

③マイカー規制を実施した場合のシャトルバス乗車時間の許容範囲

【「片道 30～40 分」との回答が最も多く、「片道 45 分～1 時間」を合わせると 90%近い】

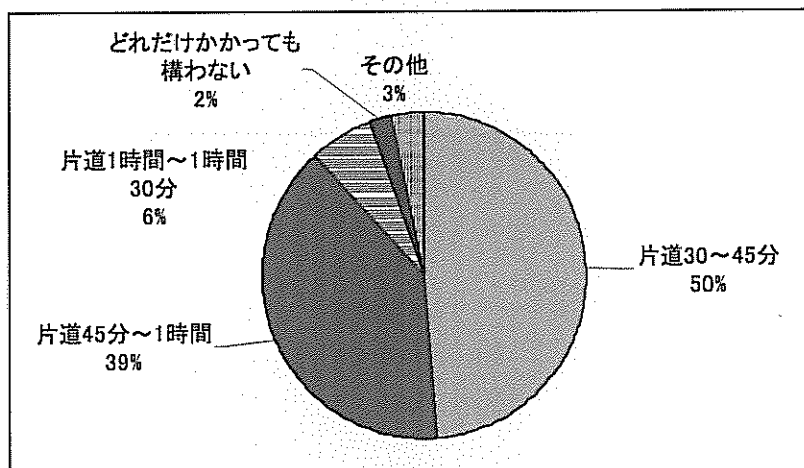


図5 シャトルバス乗車時間の許容範囲

(2) 自然体験プログラムに関する要望

①希望する自然体験プログラムの内容（複数回答）

【回答者の約30~40%が「自然観察会」、「夜の観察会、星の観察会」、「日の出を見る会」を希望】

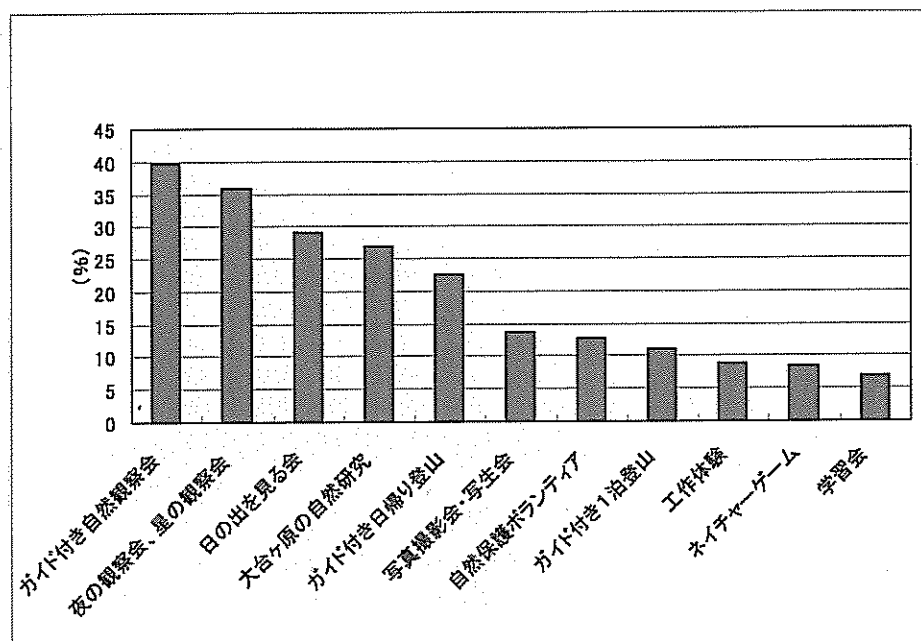


図6 参加したい自然体験プログラム

②有料ガイドツアーの料金設定

【半数以上の人「3,000円~4,000円」が妥当であると回答】

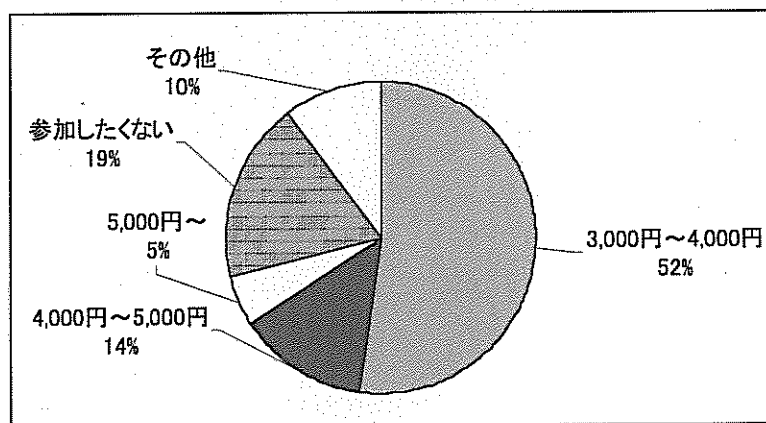


図7 有料ガイドツアー料金設定

(3) 大台ヶ原における観光出費

(数値はすべて1人当りに換算、購入場所については持参、無記入を除く。)

① 昼食

【昼食購入者の平均出費は 841円 (n=157) であり、昼食に関する出費のない人が約 46%】

【昼食購入場所で最も多いのは、駐車場に隣接する村営「物産店」】

昼食代	回答数	%
0円(持参を含む)	131	45.5
1~499円	39	13.5
500~999円	67	23.3
1,000~1,499円	36	12.5
1,500~1,999円	7	2.4
2,000~2,999円	6	2.1
3,000円以上	2	0.7
計	288	100

昼食購入場所	回答数	%
物産店	51	36.4
大台荘・山の家	19	13.6
道中の店	46	32.9
その他	24	17.1
計	140	100.0

② 飲料

【飲料購入者の平均出費は 344円 (n=94) であり、飲料に関する出費のない人が約 67%】

【購入場所で最も多いのは「道中の店・自販機」】

飲料代	回答数	%
0円(持参を含む)	194	67.4
1~99円	3	1.0
100~199円	26	9.0
200~299円	18	6.3
300~399円	19	6.6
400~499円	4	1.4
500~999円	19	6.6
1,000円以上	5	1.7
計	288	100.0

飲料購入場所	回答数	%
物産店	30	39.0
大台荘・山の家	7	9.1
道中の店・自販機	39	50.6
その他	1	1.3
計	77	100.0

③ おみやげ

【おみやげ購入者の割合は約 44% であり、平均出費は 1,802円 (n=126)】

【購入場所で最も多いのは、駐車場に隣接する村営「物産店」】

おみやげ代	回答数	%
0円	162	56.3
1~499円	12	4.2
500~999円	27	9.4
1,000~1,499円	49	17.0
1,500~1,999円	11	3.8
2,000~2,999円	11	3.8
3,000~3,999円	7	2.4
4,000円以上	9	3.1
計	288	100

おみやげ購入場所	回答数 (複数回答)	%
物産店	90	69.8
大台荘・山の家	19	14.7
道中の店	12	9.3
その他	8	6.2
計	129(延数)	100.0

④宿泊

【宿泊者の平均出費は 8,842 円 (n=49) であり、「宿泊なし」の割合が 80%を超える】

【宿泊先は「大台荘・山の家」が最も多く、宿泊予定者 (n=54) の約 30%を占める】

宿泊代	回答数	%
0円	237	82.9
1~4,999円	4	1.4
5,000~9,999円	26	9.1
10,000~19,999円	19	6.6
計	286	100.0

宿泊場所	回答数	%
大台荘・山の家	16	29.6
ホテル	14	25.9
民宿	3	5.6
その他	21	38.9
計	54	100.0

⑤日帰り温泉

【日帰り温泉利用者は全体の 25% (72 人) であり、平均出費は 576 円】

日帰り温泉等利用	回答数	%
日帰り温泉	72	91.1
ホテル	1	1.3
その他	6	7.6
計	79	100.0

	日帰り温泉名	回答数
上北山村	上北山温泉	3
	薬師湯	5
	小処温泉	12
川上村	入之波温泉	8
	五色湯	8
	山鳩湯	6
その他	きなりの湯	3
	虹の湯	3
	その他	2
	未定等	22
	計	72

II. カウンターによる利用者数調査（詳細は参考資料3の資料2-2参照）

1 目的

利用調整地区設定に関する議論を進めるための基礎的データとして入山数の動向を把握すること

2. カウンターの設置等

- ①設置場所：東大台、西大台の主要な8地点（16方向）
- ②設置時期：[西大台5地点]平成16年5月13日、[東大台3地点]同5月28日
- ③分析期間：平成16年5月13日から9月28日までの139日間
- ④記録方式：赤外線遮断感知方式、入下山2方向別、60分あたり通過数（時間設定は変更可）
- ⑤作動状況：月1回のバッテリー交換、その他器機の不具合により停止期間あり
*不具合については既に対策済み
- ⑥留意点1：機器の作動システムから、並行して通過した場合には、実際の通過人数よりカウント数が少なく記録される場合がある。
- ⑦留意点2：雨量通行規制や土砂崩れ等による通行規制が分析期間139日のうち28日あり



入下山カウンターの設置状況

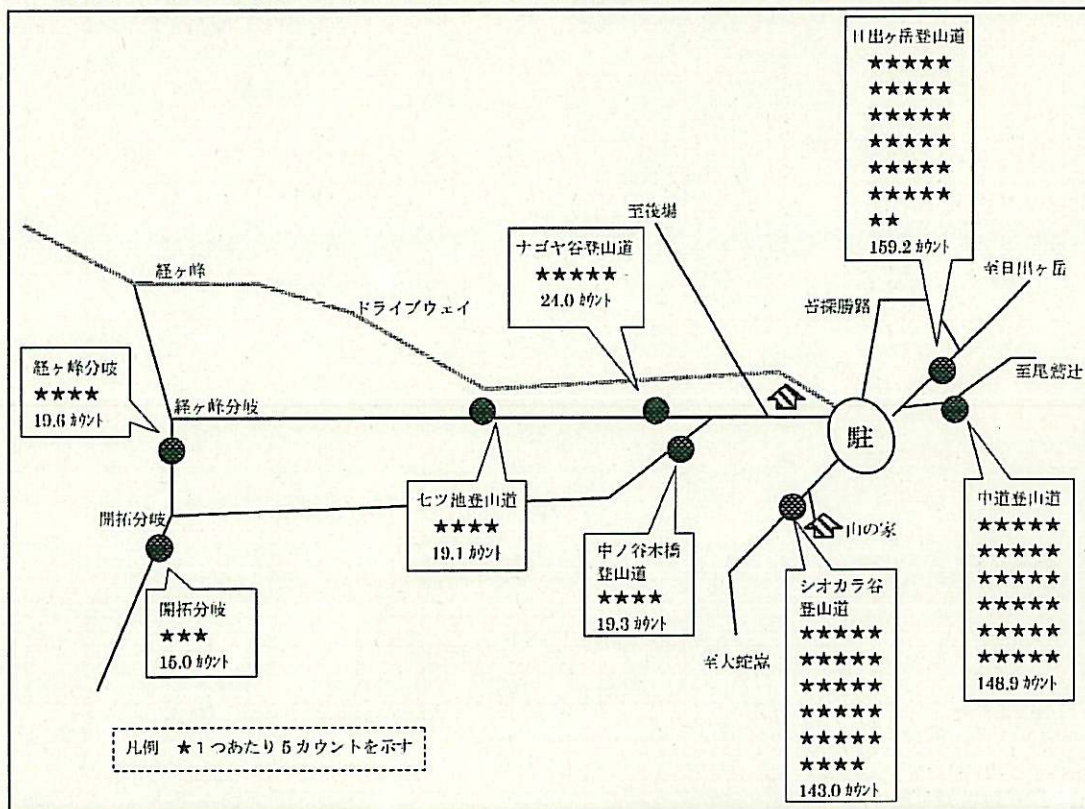


入下山カウンター内

3. カウント結果概要

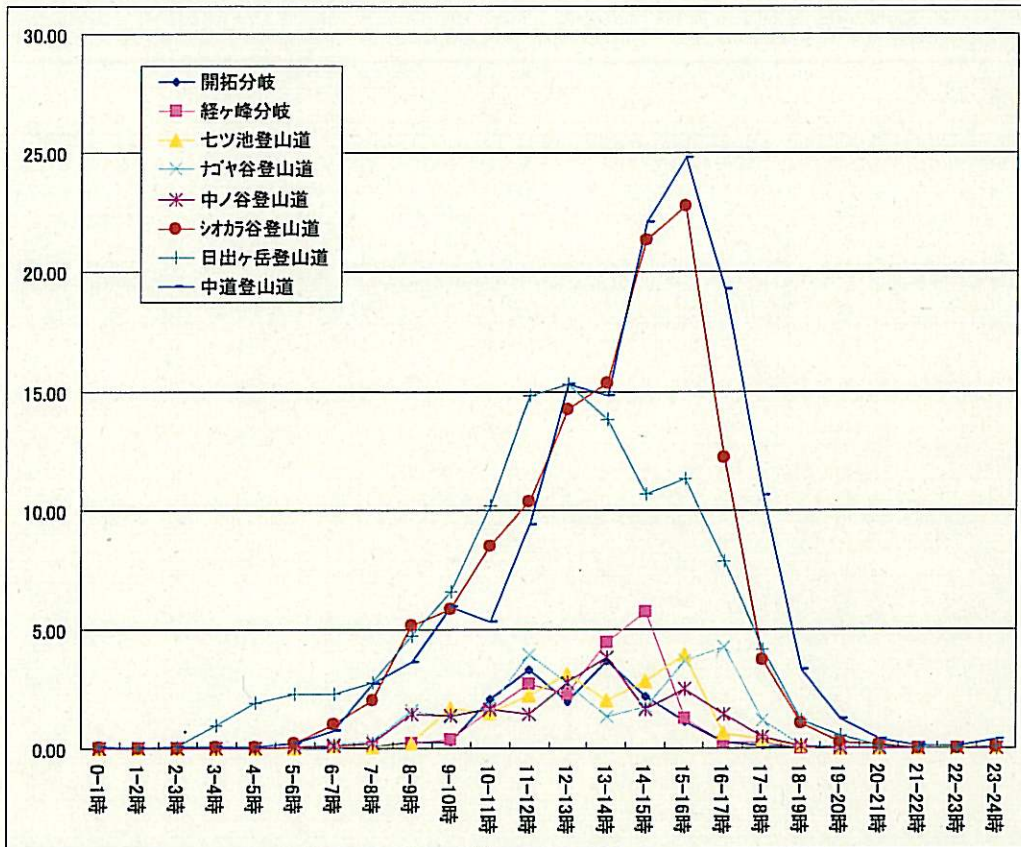
①1日あたり換算利用密度（1日あたり平均カウント数の入下山合計）

- ・1日あたり平均カウント数を比較すると、西大台の利用率は東大台の7分の1程度である。
- ・西大台ではナゴヤ谷のカウント数が多く、開拓分岐のカウント数が最も少ない。



②時間帯別利用密度（全データの1時間あたり平均カウント数の入下山合計）

- ・全カウント数の時間推移を概観すると、8時頃より増加し始め14時～16時にピークをうつ。
- ・西大台では14時台に経ヶ峰分岐で最も高いピークをうつ。
- ・ナゴヤ谷登山道では11時台と16時台にピークが分かれており、駐車場を起点とした利用の通過点であることが推測される。



4. 入下山カウンターについての調査課題

◇安定作動のための管理方策

5月の設置から現在までにバッテリー切れや光軸ズレによる動作の不具合が複数回確認された。今後、冬季の保管方法も含め、安定動作のための管理方法の確立が必要である。

◇データの蓄積

入下山カウンターを設置してから1年が経過しておらず、カウント数の変動を評価するにはデータの蓄積が必要である。

◇通過人数の補正係数の算出

入下山カウンターのカウント方式の性質から「カウント数」 \leq 「実際の通過人数」となるため、「カウント数」 \approx 「実際の通過人数」となる補正係数を算出するための検討が必要である。

◇計測時間単位の工夫

本調査では計測時間単位を60分としてカウントしたが、最大2分単位まで詳細にカウントすることが可能である。今後の調査の目的に応じて計測時間単位の検討が必要となる。

Ⅲ. 西大台利用者ヒアリング調査（詳細は参考資料3の資料2-3参照）

1 目的

西大台の利用者像を明らかにするとともに、西大台の利用のあり方や利用調整地区に関する意向等を把握すること

2. 調査概要

①調査日：平成16年5月22日（土）及び5月23日（日）の2日間

②調査地点：ナゴヤ谷、開拓跡～開拓分岐周辺（移動）の2ヶ所

③調査形態：グループの代表者に対するヒアリング形式

調査場所	ナゴヤ谷	開拓跡～開拓分岐周辺	合計
ヒアリング調査数	15	8	23

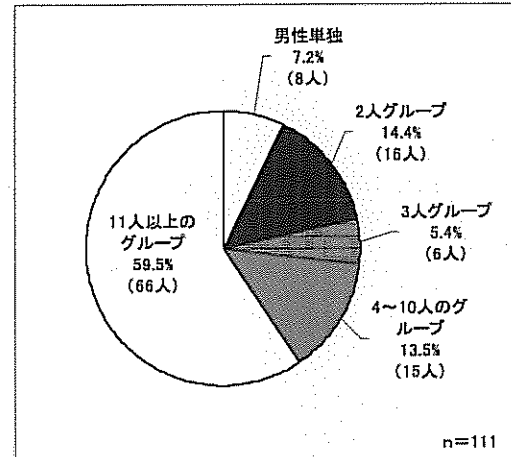
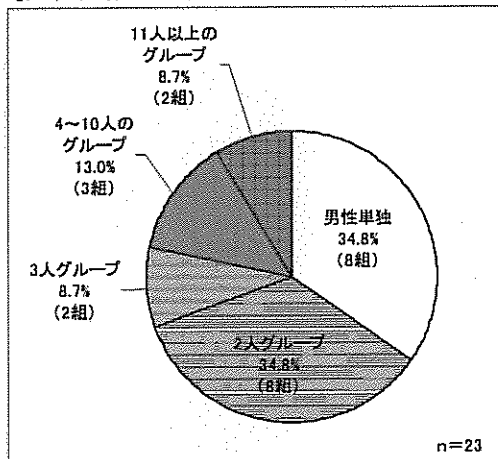
3. ヒアリング調査結果の概要

(1) 対象グループ（または代表者）の属性等

①グループの規模等

【グループ構成は男性の単独行や2～3人の小グループが多く8割近くを占める】

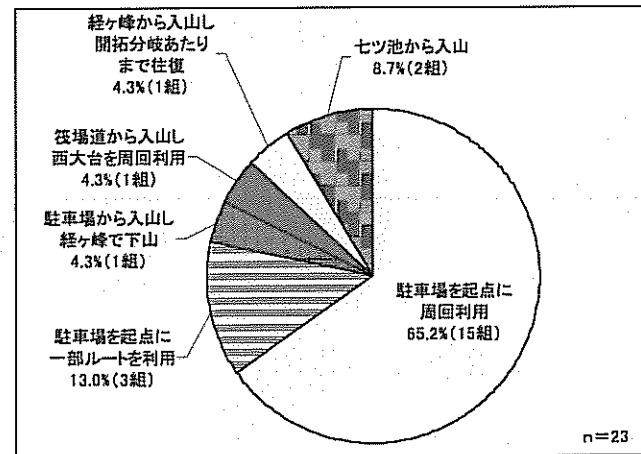
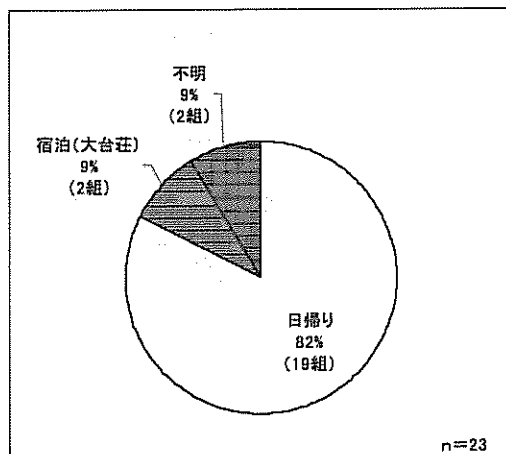
【入山人数に換算すると10名以上の団体の入山者が全体の60%以上を占める】



②スケジュール

【日帰り利用が大半】

【日帰り利用のグループは駐車場を起点に西大台を周回利用するパターンが最も多い】



③西大台利用者の満足度

【いずれの利用者も西大台に対する満足度は高い】

【自然環境の素晴らしさのほか、利用密度が小さいことが西大台の大きな魅力】

【自然体験の場として東大台との比較では西大台の評価が高い】

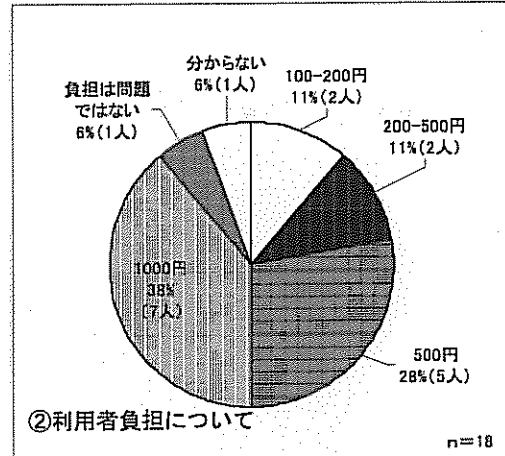
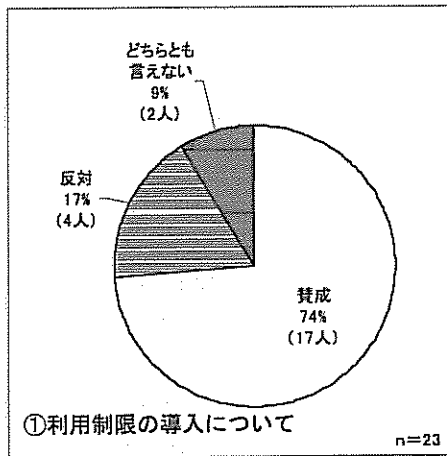
(2) 利用制限に関する意向

①西大台への利用制限（利用調整地区）の導入について

【賛成意見は74%：「不便になるが自然を守るためなら仕方ない」という意見が多い】

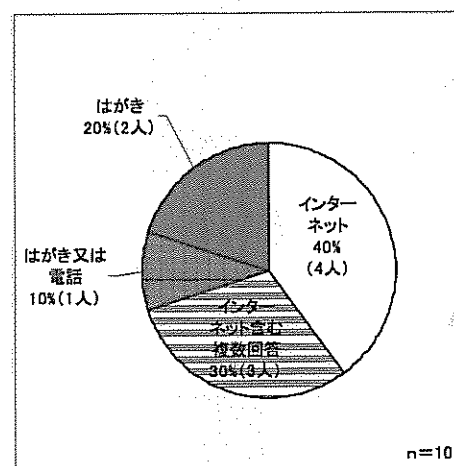
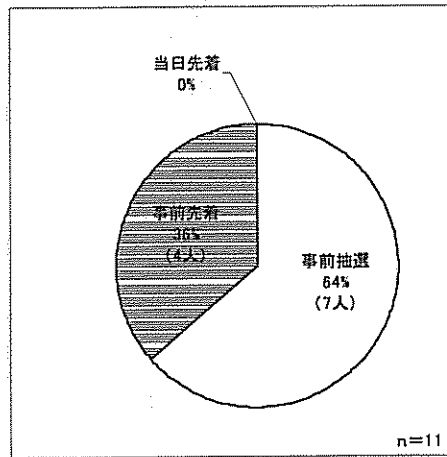
②立入り認定等の手数料に対する意向及び支払意志額

【負担金そのものに対する抵抗感は見られなかった。負担可能金額は500円以上が72%】



③利用制限に係る運営システムについて

【申込時期は「事前抽選」が64%、申込方法はインターネットを含む回答が70%】



(3) 自然体験に関する意向

①ガイドツアー等について

【賛成意見が多かった。ただし、「団体での入山は行うべきでない」との意見もあり】

②キャンプ許可について

【賛成、反対の両意見に分かれた。反対理由は森林環境が衰退することを心配】

(4) その他要望等

- ・「迷いやすい箇所があるので対策をすべき」など、歩道に関する要望等
- ・「ゴミを捨てる人がいる」、「道を外れる人がいる」、「花を踏む人がいる」など利用マナーの改善に関する要望等
- ・その他、「西大台の利用に関する情報が少ない」、「シカの密度調整が必要」、「トイレがほしい」など